

科目名	ケースから学ぶ就労支援プロセスの実際 (演習)	方法	演習	時数	240 分
-----	----------------------------	----	----	----	-------

1. 本科目のねらいと獲得目標

【獲得目標（厚生労働省標準カリキュラムを転記する）】

就労系サービスの支援の流れと各支援内容、相談支援や関係機関の連携の方法等について理解する

【ねらい】

就労支援は「働きながら生活を組み立てること」が重要であるため、生活全体を見据えた「暮らしのあり方」を柱に、利用者の個別性に合わせた支援を提供するものである

そのため、「就労支援事業所における個別支援のとらえ方」の視点を常に意識しながら、モデル事例を活用したグループワークにより、支援内容や連携等について検討しながら、サービス等利用計画及び個別支援計画を作成する

しかし、あくまでも計画作成が目的ではなく、作成のプロセスの中で、サービス管理責任者として、ケアマネジメント、コンプライアンス、地域ネットワークについて、より多くの気づきと意識が得られるよう、演習を組み立てる

2. 本科目の概要と指導ポイント

科目概要（厚生労働省標準カリキュラムを転記する）

- ① 就労系サービスや就労支援に関するサービス提供プロセス
 - ② 就労系サービスに関する個別支援計画を核としたサービス管理
 - ③ 相談支援専門員と就労系サービスにおけるサービス管理責任者の連携、サービス等利用計画と個別支援計画の関係性
 - ④ 就労系サービスや就労支援に関する関係機関等との連携
- 以上について、事例に基づく演習を実施する

指導ポイント

就労支援は「働きながら生活を組み立てること」が重要
生活全体を見据えた「暮らしのあり方」を柱に、利用者の個別性に合わせた支援を提供するために、下記5点の視点が求められる

これらの視点到気づき、それを意識しながら支援することを伝える

①働くことの意義と就労の場との関係

「一般就労なのか、福祉的就労なのか」これは二分するということではなく、利用者のニーズが、賃金・工賃を得ることなのか、社会参加なのか、訓練の場なのかを適切に見立て(例えば、訓練の場であるならば、働くことを訓練するのか、一般就労に向けての訓練なのか等)、支援者には、目的を把握した支援体制の構築にむけた取り組みが求められていることを認識する

②生活支援と就労支援を一体的に継続して実施

今よりもよりよい暮らしを営みたいと願う利用者の願いを汲みながら、「働きながら暮らす」

という視点を大切にする

③利用者が自分の人生の主人公となることを支援

仕事に就く前の準備、仕事を含む暮らしの持続、働く場からの引退まで、長期の展望を踏まえた支援が必要である

④地域ネットワークの構築と活用

利用者のニーズを真摯に受け止め応えようとする、自分たちの事業所の支援だけでは限界があることに気づき、企業、行政、他の福祉サービス等の地域社会資源の連携が必要なことを認識する

また、地域ネットワークに参加することは、自分以外の人の考え方や見方を知り、自己覚知や自己研鑽にもつながることに気づくことができることを伝える

⑤ケアマネジメントの視点を活用する

利用者の人生に寄り添い「共に悩み、共に考える」という寄り添いの原点、パートナーシップを忘れず、利用者本位の支援をすることが大切

3. 本科目の獲得目標（展開）と関連科目

獲得目標	関連科目
① ケアマネジメントおよび個別支援計画作成のプロセスと留意点	
② 多職種連携	
③ サービス管理責任者としての立ち位置の理解	相談支援専門員との相互理解

4. 本科目の展開例

使用する教材等（準備するもの）		
<p>[テキスト]</p> <p><input type="checkbox"/> 事例の概要(フェイスシート・生活歴・病歴・相談に至る経緯・生活および就労のアセスメント・地域情報等)</p> <p>[副教材]</p> <p><input type="checkbox"/> 講義用スライド</p> <p>[その他の準備するもの]</p> <p><input type="checkbox"/> ノートパソコン <input type="checkbox"/> 液晶プロジェクタ <input type="checkbox"/> スクリーン <input type="checkbox"/> マイク(1本)</p>		
本時の展開		
導入 講義	30分	<p>本科目のねらいと獲得目標、演習のポイントについて概説し、演習内容のガイダンスを行う。</p> <p>演習の目的と留意点及び演習の進め方について</p>

		<p>※留意点については、就労支援は「働きながら生活を組み立てること」が重要、生活全体を見据えた「暮らしのあり方」を柱に、利用者の個別性に合わせた支援を提供するという、これまでの講義で既習の内容、もしくは既習の視点から導かれる具体的な留意事項であることを伝える。</p>
展開 1	150 分	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>具体例に基づき、サービス等利用計画(案)の作成、個別支援計画(案)の作成の流れをプロセスを追って説明し、その留意点を提示する</p> </div> <p>演習① 生活困窮者自立支援事業から障害福祉サービスへ移行時点でのサービス等利用計画(案)の作成</p> <p style="padding-left: 40px;">事例の概要説明</p> <p style="padding-left: 40px;">個人ワーク(主訴の把握とニーズの整理)</p> <p style="padding-left: 40px;">グループワーク(地域特性や社会資源の状況を把握し、サービス担当者会議の準備も含む設定での作成)</p> <p>演習② A型利用の個別支援計画(案)の作成会議</p> <p style="padding-left: 40px;">(一年後、一般就労に向けて)</p> <p style="padding-left: 40px;">個人ワーク(主訴の把握とニーズの整理)</p> <p style="padding-left: 40px;">グループワーク(個別支援計画作成会議に基づき計画を作成)</p> <p>※キーワードについては、ケアマネジメントと多職種連携</p>
展開 2	55 分	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>展開 1 を受け、就労分野のサービス管理責任者として、障害者の就労支援とはどのようなものか、どのようなことを大事にして展開されるべきなのかについて気づきを促す</p> </div> <p>演習③ 就労分野のサービス管理責任者の役割と立ち位置について</p> <p style="padding-left: 40px;">グループワーク</p> <p>※討議のポイントについては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が自分の人生の主人公となるため、ケアマネジメントの視点を 用いた支援が重要になる ・地域ネットワークを構築・活用して幅広い支援の選択肢を持つ <p>※就労支援は、利用者の生活全体を見据えた「暮らしのあり方」を柱に、将来をも見越して、就労支援と生活支援を一体的に支援することを意識し、そのために、企業、行政、医療、他の福祉サービス等の地域社会資源の連携が必要なことを認識する</p>
まとめ	5 分	講義のまとめ